

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育・広報部

## 2019春闘に向け 一人ひとり考え要求をつくり出そう!!

間もなく 2018 年が幕を閉じ、2019 年を迎えます。2018 年皆さんはどういった年でしたか？

2018 年は JR 発足から 30 年を経過し、労使関係を一変させました。その結果、2018 春闘では会社の一人勝ち・一強体制を生み出しました。その後も「駅業務執行体制の再構築」「乗務員勤務制度の見直し」「賃金制度の見直し」「変革 2027」「電気部門の変革 2022」等の会社施策が矢継ぎ早に提案されています。

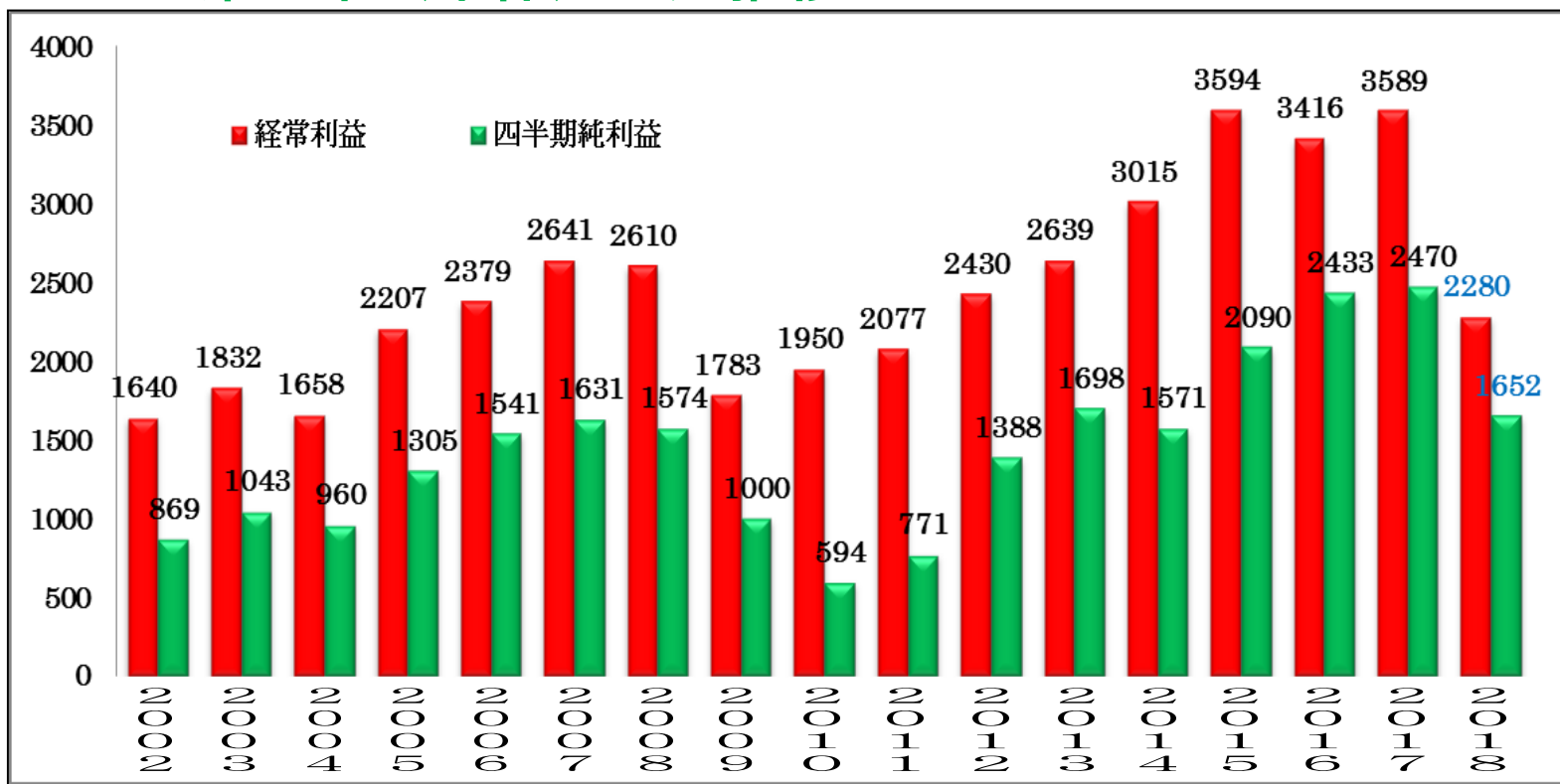
私たちの暮らしを見ると、2019 年 10 月には消費税が 8%から 10%へ。物価の上昇も月々予定されています。

12月	業務用小麦粉（12月20日～）
1月	家庭用小麦粉（日清フーズ・日本製粉・昭和産業1月4日出荷分～） 読賣新聞購読料（1月1日～）
2月	QBハウス（2月1日～）
3月	冷凍食品（オーマイ製品16品目3月1日納入分～） ちくわ等（日本水産3月1日出荷分～） アイス（ロッテ製品29品目、明治製品23品目3月1日出荷分～・江崎グリコ製品55品目、森永製菓7品目3月出荷分～）
4月	食塩（塩事業センターの一部商品3月1日出荷分～） 東洋水産（マルちゃんブランドの生麺や冷凍食品、家庭用と業務用の冷凍食品の計200品目以上3月1日納品分～） 日清食品チルド（チルド麺製品3月1日納入分～）

経団連の中西宏明会長は3日の記者会見で、2019年の春季労使交渉に向けた考え方について「重点は働いている方々が働きがいのある処遇や環境をどうつくっていくか」「大きく産業構造が変わる最中。働く人にしっかりやる気を出して働いてもらわないといけない」とし、体力がある企業には賃上げが重要な方策だとの見解を示し、連合は2019春闘について「総合生活改善闘争」の位置づけのもと、国民生活の維持・向上をはかるため、労働組合が社会・経済の構造的な問題解決をはかる「けん引役」を果たす闘争であるとし、

賃上げ要求については、社会全体に賃上げを促す観点とそれぞれの産業全体の「底上げ・底支え」「格差是正」に寄与する取り組みを強化する観点を踏まえ、2%程度を基準とし、定期昇給相当分（賃金カーブ維持相当分）を含め4%程度と発表しました。

## ◆JR 東日本（単体）収入推移（2018年度は業績予想）



この間の業績は、様々な苦境にも耐え、現場で汗を流し日々の安全安定輸送をはじめ、収入確保に取り組んできた労働者・社員一人ひとりの結果です。この間ベアは上がっていますが、職場から声を出し行動しなければ会社はベースアップを実施せず、定期昇給すら出さなくなります。仕事・勤務内容が膨大になるも安い賃金で労働しなくてはならなくなります。こうした情勢のなか、私たち働く者が2019春闘に対して無関心では、勝利を達成することは一切出来ません。働く者一人ひとりが、今一度春闘とは何かを考えるべきです。

**春闘**とは、日本において毎年春（2月）頃から行われる、ベースアップ等の賃金の引上げや労働時間の短縮などといった労働条件の改善を交渉する労働運動である。

会社（経営陣）と交渉するのは本部交渉団ですが、私たち東日本ユニオン横浜地本は組合員一人ひとりが2019春闘の要求をつくり、声（要求）を本部へ届けます。

既に2019春闘へのたたかいは始まっています。政治（官制）主導の春闘ではなく、全労働者の団結による労働組合の結束力が必要です。東日本ユニオンは2月9日の中央委員会で要求が決定します。

**春闘に関心を持ち  
職場からのたたかいをつくり出そう！  
働く者の総団結で勝利を目指そう！！**